

学校教育

◆目標

一人一人の個性や能力を引き出し、活かし、伸ばす教育により、すべての子どもの「生きる力」を育むことを目指します。

■現状と課題

少子高齢化やグローバル化の進展等による社会の変化が激しい現代では、自ら課題を見つけよりよく解決する「生きる力」が必要とされています。国では、子ども達の「生きる力」を育むため、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスのとれた育成や、道徳教育、体育などの充実による豊かな心や健やかな体の育成を掲げています。

本市の児童生徒の学力について、近年の全国学力・学習状況調査の結果をみると、知識理解力は全国平均値と同等ですが、活用力は全国平均値を下回っています。今後は、学習意欲や態度の育成と個に応じた指導を目指し教師の指導力をさらに向上させるとともに、認定こども園・小・中学校が連携し、社会の変化に対応するための「生きる力」を育成していくことが課題となっています。

心の教育について、本市では「喜多方市人づくりの指針」を活かした道徳教育や情操教育等に取り組んでおり、いじめや暴力などの問題行動は、全国と比べ非常に少ない傾向にあります。今後は、子どもが夢や目標を持ち、人としてよりよく生きようとする意志や態度を育成するとともに、地域や社会の一員として自立し、人と関わり合いながら地域社会の発展に貢献していける資質を育むことが必要となっています。

健やかな体の育成については、運動課題に基づいた授業の実施や体力づくりの日常化、運動好きな子どもの育成などに取り組んできました。今後は、体育の授業にとどまらず、生涯スポーツに取り組む態度について日常生活の中で育んでいくとともに、保護者や関係機関と連携した健康教育や食育、学校給食の充実が必要です。

安全教育については、学校安全体制づくりや危険回避能力の育成、放射線教育の推進等に取り組んできました。今後は、子どもが自ら危険を予知し、回避する能力を育成するため、体験的な学習の工夫改善と防災教育の充実が必要です。

教育環境については、すべての子どもが安全に安心して学ぶことができる環境の整備が求められており、本市の実態に応じた適正配置について様々な視点から十分検討し、施設整備を含め取り組んでいくとともに、教職員がやりがいと誇りを持つ

て子どもと向き合うことができる体制づくりが課題となっています。また、子どもたちが向上心や向学心を高め、意欲をもって学び活動できる教育の基盤づくりや、均等に教育の機会が得られる支援等を充実させていく必要があります。

学校施設については、これまでの計画的な取組により耐震化は平成 29 年度をもって完了することとなりますが、施設や設備の老朽化が進んでいる状況にあります。学校施設は児童生徒の学習や生活の場であるとともに、地域コミュニティの醸成や災害時の緊急避難場所としての機能を有する重要な施設であるため、適切な教育機能を維持するとともに、安全・安心で快適な施設環境を確保していくことが必要です。さらに、変化の激しい社会を生き抜いていく力を育むため、時代の要請に対応した施設・設備の充実が求められています。

子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を活かしながら、社会において自立的に生きていくための必要な「生きる力」とは何かを、資質・能力として具体化し、そうした資質・能力を確実に身に付ける教育を通して、たくましく生き抜く力を育むことが大切です。

具体的には、「生きる力」としての資質・能力を、「すべての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」、「よりよい社会づくりのために必要な資質・能力」、「社会の変化に対応できるように必要な資質・能力」と捉え、これを育成するため、次の7つの施策に取り組みます本市児童生徒の実態と課題を踏まえてその具体的な資質・能力を以下の4つとし、重点的に育成を図ります。

- (1) 自己啓発力の育成
- (2) 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力の育成
- (3) 勤労観、職業観及び職能の基本的資質・能力の育成
- (4) 共助、協働の態度及びコミュニケーション能力の育成
- (5) 教員の資質・能力の向上
- (6) 安全で楽しく学ぶことができる学校環境の整備
- (7) 均等な教育機会の確保と意欲をもって学べるための支援

■施策の内容

(1) 自己啓発力の育成

- ・ 子どもが創造性を発揮して個性豊かな自分の生き方ができるよう、教養を修め、主体的でたくましい実践力を育成します。
- ・ 子どもが夢や目標を持ちその達成に向かっていけるよう、自尊心や自己肯定感を育みます。
- ・ 「喜多方市人づくりの指針」を活用し、子どもの社会性や望ましい価値観の形成を図ります。
- ・ 小学校農業科を通し、「豊かな心の育成」「社会性の育成」「主体性の育成」など、子どもの心の育成を図ります。
- ・ 「本物」(人、自然、文化、芸術、スポーツ、科学等)に触れることで憧れや感動を味わう機会をつくり、子どもの夢や希望を育みます。

(2) 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力の育成

- ・ ~~認定こども園・小・中学校が幼児教育との連携を図り~~、子どもの発達段階や個性を大切にした教育を行うことで、自ら知識や技能を獲得し、思考力・判断力・表現力を働かせ、主体的に課題解決できる子どもを育みます。
- ・ 学校・家庭・地域・関係機関等が連携し、それぞれの役割を果たしながら健康教育や食育等を充実させ、健やかな心身を育みます。

(3) 勤労観、職業観及び職能の基本的資質・能力の育成

- ・ ICTを学習の有効なツールとして活用することで、より深い理解や定着を目指すとともに、情報を活用する力を育てます。
- ・ 一人一人の社会的・職業的な「自立」に向け、必要となる資質や能力・態度の育成を図り、望ましい勤労観・職業観を育みます。
- ・ 体験活動やボランティア活動の推進と充実を図り、自らの思考や知識を働かせ実践する力を育みます。
- ・ 発明、発見、ものづくりなど様々な体験活動を通して育まれた、~~子どもの知識や気づき、興味等を活かし、~~創造性を培います育みます。

(4) 共助、協働の態度及びコミュニケーション能力の育成

- ・ 子どもが社会の一員として、必要な知識・スキル・価値観を身に付ける教育を行います。
- ・ 子どもが郷土に自信と誇りを持ち、それを人前で自信をもって表現できる子どもの育成を図ります。
- ・ 障がいのある、なしにかかわらず、その能力に応じた教育を受ける機会を得ら

れるよう、インクルーシブ教育※の充実を図ります。

- ・ 一人一人の人間関係をつくる力を育むとともに、それぞれが自己実現を目指した学級集団の人間関係づくりに取り組みます。

(5) 教員の資質・能力の向上

- ・ 児童生徒を理解する力、授業力、生徒指導力、学級経営力等を高めるための研修会等を充実させます。
- ・ 教員の能力開発や資質の向上及び組織の活性化に向けた人事評価を充実させます。

(6-5) 安全で楽しく学ぶことができる学校環境の整備

- ・ 児童生徒一人一人の「なかよくたくましく生きる力」を育成するため、小・中学校の適正規模、適正配置を推進します。
- ・ 悩みを持つ子どもが気軽に相談できる体制づくりや、不登校の子どもが人と触れ合ったり学習したりできる教育環境づくり 並びに安全・安心な給食運営体制等の整備を進めます。
- ・ ~~一人一人の個性や能力を育むため、教職員の指導力の向上を図ります。~~
- ・ 多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に課題解決を図るとともに、教職員が職務に専念できる環境をつくり、子どもと向き合う時間を創出します。
- ・ 老朽化した学校施設の計画的な改修・改築など、安全・安心な教育環境の整備を進めるとともに、ICTを活用した教育設備の充実など、これからの社会を生き抜いていく力を育成するための教育環境の整備に取り組みます。
- ・ 遠距離通学の安全・安心を確保するため、スクールバスの運行や公共交通機関の利用に対する支援を行います。

(7-6) 均等な教育機会の確保と意欲をもって学ぶための支援

- ・ すべての子どもに均等な教育機会を確保するため、経済的理由により就学や進学が困難と認められる子どもの保護者に対し、就学援助や奨学資金制度の活用により経済的負担の軽減を図ります。
- ・ 子どもたちが向上心と意欲を高め音楽や体育の競技会等に参加できる環境をつくるため、競技会等への参加に要する保護者負担の軽減を図ります。

※ 「インクルーシブ教育」とは、障害のある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を「通常の学級において」行う教育のことです。

■指 標

指標名	現状値	目標値	
		平成 33 年度	平成 38 年度
「自分には、よいところがある」と回答した割合※ ¹ (全国学力・学習状況調査における質問項目(「あてはまる」と回答した割合))	〈小学校〉 31% 〈中学校〉 24% (平成 28 年度)	〈小学校〉 <u>5040%</u> 〈中学校〉 <u>5035%</u>	〈小学校〉 <u>8050%</u> 〈中学校〉 <u>8050%</u>
全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学の「主に知識に関する問題(A)」と「主に活用に関する問題(B)」の結果の全国との比較(知)※ ² (全国平均との比較)	〈小学校〉 国語A：全国並み 国語B：下回る 算数A：やや下回る 算数B：やや下回る 〈中学校〉 国語A：やや下回る 国語B：やや下回る 数学A：やや下回る 数学B：下回る (平成 28 年度)	〈小学校〉 各科目とも <u>やや上回る全国並み</u> 〈中学校〉 各科目とも <u>やや上回る全国並み</u>	〈小学校〉 各科目とも <u>やや上回る</u> 〈中学校〉 各科目とも <u>やや上回る</u>
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した割合(徳)※ ³ (全国学力・学習状況調査における質問項目(「あてはまる」と回答した割合))	〈小学校〉 66% 〈中学校〉 70% (平成 28 年度)	〈小学校〉 <u>8070%</u> 〈中学校〉 <u>8070%</u>	〈小学校〉 <u>9075%</u> 〈中学校〉 <u>9075%</u>
体力・運動能力調査における達成率(体)※ ⁴ (調査の8種目中、何種目で全国平均値並となったかを表す達成率)	〈小学校〉 男：46% 女：44% 〈中学校〉 男：23% 女：20% (平成 28 年度)	〈小学校〉 男：63% 女：63% 〈中学校〉 男：50% 女：50%	〈小学校〉 男：100% 女：100% 〈中学校〉 男：100% 女：100%
「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合※ ⁵ (全国学力・学習状況調査における質問項目(「あてはまる」と回答した割合))	〈小学校〉 67% 〈中学校〉 48% (平成 28 年度)	〈小学校〉 <u>8075%</u> 〈中学校〉 <u>7055%</u>	〈小学校〉 <u>9080%</u> 〈中学校〉 <u>8060%</u>
学級生活満足群と不満足群の割合※ ⁶ (Q-U※ ⁷ で、学級集団に対し「居心地がよい、嫌な思いをしていない」と捉えている子どもの割合(満足群)とその反対と捉えている子どもの割合(不満足群))	〈小学校〉 <u>満足群：64%</u> <u>不満足群：13%</u> 〈中学校〉 <u>満足群：59%</u> <u>不満足群：19%</u> (平成 28 年度)	〈小学校〉 <u>満足群：80%</u> <u>不満足群：0%</u> 〈中学校〉 <u>満足群：75%</u> <u>不満足群：0%</u>	〈小学校〉 <u>満足群：90%</u> <u>不満足群：0%</u> 〈中学校〉 <u>満足群：85%</u> <u>不満足群：0%</u>

(各指標の調査対象は、体力・運動能力調査が小学校5年生と中学校2年生、学級生活満足群が小学校5、

6年生と中学校1年生、その他は小学校6年生と中学校3年生です。)

- ※1 自己啓発力が醸成されたかを測るもの。平成28年度の全国平均値(〈小学校〉36%〈中学校〉27%)を上回る目標設定とします。
- ※2 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力が育成されたかを測るもの。知・徳・体の知の分野。全国平均を上回る目標設定とします。
- ※3 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力が育成されたかを測るもの。知・徳・体の徳の分野。平成28年度の全国平均値(〈小学校〉72%〈中学校〉72%)を上回る目標設定とします。
- ※4 学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力が育成されたかを測るもの。知・徳・体の体の分野。8種目すべてで全国平均値を上回る目標設定とします。
- ※5 勤労観、職業観及び職能の基本的資質が育まれたかを測るもの。平成28年度の全国平均値(〈小学校〉69%〈中学校〉45%)を上回る目標設定とします。
- ※6 共助、協働の態度及びコミュニケーション能力が育成されたかを測るもの。満足群は、平成28年度の全国平均値(〈小学校〉39%〈中学校〉37%)を上回る目標設定とし、不満足群は0%を旨指します。
- ※7 Q-Uとは、楽しい学校生活を送るためのアンケート形式の標準化された心理テストであり、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「居心地のよいクラスにするためのアンケート」で構成されています。